

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

|            |                     |
|------------|---------------------|
| 事業所番号      | 3771200304          |
| 法人名        | (有)お元気ですかショップ山下     |
| 事業所名       | グループホーム青空           |
| 所在地        | 香川県小豆郡小豆島町西村甲2121-1 |
| 自己評価作成日    | 令和 4 年 7 月 13 日     |
| 評価結果市町村受理日 |                     |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3771200304-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3771200304-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a> |
|----------|---|

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                  |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス |
| 所在地   | 岡山市北区岩井二丁目2-18   |
| 訪問調査日 | 令和 4 年 8 月 4 日   |

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が自分らしく、穏やかに生活できるように職員は常に利用者様の話に耳を傾け、笑顔で接する事を心掛けています。  
 ・家訓、理念のもと家庭的な雰囲気の中で職員は利用者様と共に生活し、ゆっくりと関わりを持つようにしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者交代から、代表と新管理者が前向きに第一歩を踏み出している。管理者に依存し過ぎていたため、管理者がいっぱいいっぱいの業務となり、思うことができていない状態が続いた事から、工夫に余念がないように何でも話せる代表と意思疎通を図っている。管理者も自分の思いを職員に本当に伝えられているのかと自問自答しながら、代表の描いている理念を家風として、より良い施設を目指している。やはり、なんと言っても、ベテランの職員で看護師、ケアマネを持った管理者経験がある方の力を頼れ、後押ししてくれることも魅力の一つで、外国人の元気さも加わって雰囲気を盛り上げているであろう。今後の真価が期待できる施設であった。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                              | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)   | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) |    |   |

有限会社アウルメディカルサービス

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |  |
|--------------------|-----|--|--|--|--|
|                    |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容                              |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |  |  |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                             | ユニットのリビングには家訓と理念を掲示し、職員は家訓や理念に対して各自が目標を持ち、実践できるように取り組んでいる。   | 理念を家訓とし、事業所玄関・リビングに掲示している。職員は、家訓に沿い、利用者に思いやり、優しく、親切をモットーに明るく、楽しく。仲良く、温もりのある心の安らぎを得られるように支援を行っている。                                |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                             | 現在コロナ禍で中止しているが、年に一度の納涼祭ではご近所の方を招いて賑やかで楽しい一時を家族様と一緒に過ごされている。  | 家訓は地域に溶け込み貢献するとなっているので、近隣住民との挨拶をはじめ、付き合いを深め、ご縁が継続できている。近隣の方から野菜を頂き、おしゃべりをすることもある。町内会に入っている他、経営者・管理者が消防団に所属している、地域に密着した関係性が築けている。 | 地域の関りとして、警察・消防・学校などを含めた、地域の交流をさらに広げてはいかげでしょうか。 |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 運営推進会議の際に、ホームでの様子や認知症についての話をし理解を深めてもらっている。現在はコロナ禍で書類開催になることが多く、返信用封筒を同封し相談を受けた場合は専門的な知識を活かし、認知症に関して分かりやすくアドバイスをしている。 |  |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている        | 運営推進会議では、地域や家族代表の方、町職員の方に参加して頂き、ホームの活動状況や取り組み状況の報告をして、参加者からの意見や助言をサービスの向上に活かしているが、現在はコロナ禍で開催が難しく書類開催にて意見を伺っている。      | 運営推進会議には、町の高齢者福祉課の他、民生委員・町内会長が参加している。水害への対応も議題に挙がり、避難方法や避難場所の検討も行った。   | 広い視野を求めるためにも、新しい委員会メンバーを募ってはいかがでしょうか。          |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                  | 運営推進会議以外でも、困難事例や日常的な介護の実践において、分からない事があれば町役場の担当者の方に相談し、アドバイスを頂いたりしている。  | 町との連絡は密に取ることができており、新しい情報も、その都度受け取っている。不明瞭な点を確認すると、的確なアドバイスを受けることもできている。  |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的に玄関の施錠は夜間のみであるが、現在はコロナ禍で暫定的に日中も施錠している。毎月の職員会議では、身体拘束廃止委員会が拘束について話をし職員全体で話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。                   | 職員会議の中で、身体拘束を議題に挙げて話し合い「ちょっと待って」に変わる言い回しを考えていて、拘束防止委員会の会議の仕方もう工夫をしようとしている。センサーマットも、家族の了解を得た上で事故防止に役立っている。                        |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 職員会議等で虐待をしないケアの実践を確認する機会をもつようにしているが、コロナ禍が落ちれば外部での研修会等に参加し、学ぶ機会を持ちたいと思っている。   |  |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 権利擁護に関する制度については、話し合いや学ぶ機会は少ないので勉強会などで学ぶ機会を持つようにしていきたいと考えている。                        |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約時には十分な説明を行い、ご家族の不安な思いや不明な点が残らない様にホームでの生活について詳しくお話しし、理解、納得して頂けるよう努めている。            |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 利用者様の要望等は日々の生活の中での会話のやり取りで汲み取るようにしている。ご家族には電話連絡時等に意見や要望などをお聞きし、運営推進会議等で話し、意見を頂いている。 | 家族に電話連絡を行い、事業所の近況報告を行う中で、意見や要望を確認している。利用者からは、外出したいとの思いが見られたため、海が開けた岬へとドライブに出かけ、雄大な気持ちでストレス発散できる機会として、実施している。    |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月の職員会議や、毎朝の申し送り、連絡ノート等を通じて職員の意見や提案を把握し、管理者会等で検討し運営に反映させるようにしている。                   | 職員からの意見も多く挙がっている。その一つとして、リビングには、ひまわりやハイビスカス柄の大きなタペストリーを飾っていて、職員と利用者が一緒に折った「折り紙のバツタ」が跳んでいて、さりげなく鮮やかな花に一隅を照らしていた。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 職員の自己評価を実施したり面談の場を設け、日頃の実績を処遇に反映し、要望の把握に努めている。                                      |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | コロナ禍が落ち着けば事業所内外での研修の機会を確保したいと思っている。月一回の勉強会では担当職員がテーマを決め、それについての取り組みを行っている。          |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在はコロナ禍で出来ていないが、外部の研修に参加し、情報交換や交流を通じ事業所内での研修報告や勉強会などで全体の職員に伝え、サービスの質を向上させていく取り組みをした |   |                   |

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
|                              |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |   |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に施設見学(現在はコロナで施設内に入れないので写真を見て貰っている)や面接を行いご本人の状態や生活状況、ご本人やご家族の意見や希望を伺い、職員全体で情報を共有し、入居後安心して暮らせる関係づくりに努めています。                        |   |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入居前の面接等でご家族の不安や要望等を詳しく聞き、入居後もご家族とはなす機会を多くし、安心して生活できる様一緒に関われる関係づくりに努めています。   |   |                   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 入居前の見学や面接、契約時にご家族から話を聞き、状態を確認して必要な支援が行えるよう対応している。   |   |                   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 得意な事や役割としてできる事を見つけ、職員や他の利用者の方と一緒にやる事で生きがいを見つけ、生き生きと暮らして頂けるよう努めている。  |   |                   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 毎月の青空新聞発行や電話連絡等で日々の生活の様子を報告し、ご本人らしい生活が出来る様家族と共に考え、相談できる関係を築いている。  |   |                   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | カラオケ交流会では地元の利用者の方もおられ、顔見知りの方が来て下さるのでとても楽しみにされている。家の近所をドライブしたり、以前よく買い物に行かれたスーパーに買い物に出かける機会を作っている。これらもコロナ禍で中止になっているので落ち着けば機会を見て再開したい。 | コロナ禍の中、なかなか馴染みの方に合う機会が少ないため、身近な人や場を提供してご縁を深めようとしている。事業所のリビングが馴染みの場所となっていて、利用者同士だけでなく、職員とも関わることが一つの楽しみになっていて、他所は、限られているが、地域の方ともご縁が深まるように散歩などもしている。 |                   |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 気の合う利用者様同士、近くの席に座って頂いて利用者さん同士が会話を楽しんだり、職員が常に利用者様とのコミュニケーションを心掛け、良好な関係を築けるよう支援している。  |   |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
|                                    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                   | サービス終了後も、そのご家族に会えば状況をお聞きしている。他の施設等に入居が決まった場合はご本人の情報を詳しく伝え、その後も必要に応じて連絡を取り合っている。           |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |   |   |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | 利用者様との日常の会話やご家族との話し合いで利用者様の希望を出来るだけ聞くよう心掛けている。意思疎通が困難な利用者様に対しては顔色や表情を観察し、思いを理解する様努めている。   | 利用者の言葉だけでなく、表情や仕草からも意向を汲み取ろうと努めている。なかなか意向が分かりづらいときは、ゆっくりと腰を据えて、時間にゆとりを持って把握しようと試みている。  |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                      | 入居前にご家族から自宅での生活状況を詳しく伺い、これまでの環境と出来るだけ変わらないように使い慣れた馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂くなどし、配慮している。          |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている  | 居室でテレビを観たい方や食後は居室で休みたい方など、個々に応じて生活が出来る様に配慮している。また、一人ひとりの状態に変化があれば細かく伝え、職員全体が把握出来るようにしている。 |  |                   |
| 26                                 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3ヶ月毎にカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意向を元に現状のニーズに合った介護計画を作成している。利用者様の状況に変化があった場合はその都度見直しを行い変更している。     | 入居前に、最初の計画作成を行っている。以降は3ヶ月ごとに実施し、利用者の状況に合わせて内容を変更している。ケアマネジャーは、以前の管理者で、看護師の立場からも、職員の気持ちも理解していて、モニタリングをよく聞き取り、医療面からもケアプランに反映させている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                       | 利用者様の状態の変化や気づきには個別の介護記録に記入し、職員全体が共有している。毎日の申し送りや連絡ノートを活用し、情報の共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。       |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる              | ご本人やご家族の状況に応じて対応できるよう、カンファレンスや朝の申し送り時のミーティングなどの機会に支援方法について話し合っている。                        |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                     | コロナ禍で中止になっているが、音楽療法や子ども園の園児の慰問、二ヶ月に一度地元のボランティアの方とのカラオケ交流会など一緒にやっている。商工会のイベントやふるさと祭りなど、希望に応じて参加している。         |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 協力医療機関は近くにあり、緊急時にはすぐに受診できる体制である。希望があれば今まで受診していた医療機関を受診している。必要時には家族様と同行してもらい付き添いをしてもらっている(現在はコロナ禍の為、職員のみで対応) | 基本的に往診はしていないため、職員もしくは家族が、利用者と一緒に通院を行っている。看護師の協力で、入居者様の状態の定期的な連絡、定期的に更新したサマリーの配布及び職員会議資料の配布等々、出来るだけこまめに気配りし、医療機関とも連携し、緊急時も受診しやすい関係が築けている。 |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                         | 職場内の看護職員に毎朝バイタル状況や体調の変化を伝え、体調管理を行っている。体調の変化や状態が悪くなった時は看護師に相談し、指示を仰いでいる。                                     |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には利用者様についての情報やサマリーを作成し、ご家族や病院関係者と退院に向けての計画を相談しながら退院への支援を行っている。   |  |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 緊急時の対応や延命に関しての意思確認書を入居時に提出して頂いている。終末期には出来る限りのケアを続けられるよう、ご家族や医療関係者に協力を得ながら対応している。                            | 今年も1件の看取りを行っている。家族とのすり合わせを行った上で、医療機関と協力し、できる限りのケアを行っている。デスカンファレンスも職員間で行い、今後はこうしていきたいなど、利用者の家族の気持ちに添えるように支援している。                          |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 緊急時のマニュアルを作成し、常時確認できる場所に掲示したり、介護記録にも綴じて的確に対応できるようにしている。コロナ禍が落ち着けば救急救命の講習会にも参加をしたい。                          |  |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 定期的に避難訓練を実施しており、年に1回は消防立ち合いにて訓練を行っている。訓練後は反省会にて話し合い、職員間に周知徹底するようにしている。                                      | 火災想定避難訓練は、消防署の立ち合いの下、実施している。災害時の対応を詳細に書いたマニュアルを作成している、共有場所に連絡体制表をいつでも確認できる体制が整っていた。  |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |  |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 一人ひとりの人権やプライバシーを尊重し、言葉遣いも丁寧に対応できるよう心掛け努力している。  | 基本的には苗字に「さん」を付けて呼んでいる。ただし、苗字の読みが同じ場合には、名前に「さん」を付けて呼んでいる。先生の方で、以前呼ばれていたからと「先生」と呼ばれるよりも、氏名で言葉をかけてほしいとの要望があり、職員も言葉掛けに配慮している。              |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 職員は毎朝一人ひとりに挨拶と声掛けをし、積極的にコミュニケーションを図ることで利用者様の思いや希望を把握し、ご本人の希望や思いに沿ったケアが出来るよう努めている。          |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの性格や生活のリズムを大切にし、個々に合った生活が出来るよう支援している。   |  |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 一部の方はご自分の好きな服装選びをされるので、そのお手伝いをしてい。ご自分でできない方は職員が季節に合った服装を選んでいる。                             |  |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 野菜の下ごしらえや机拭き、食器拭きなど自分の役割としてできる事はお手伝いして頂いている。毎月のおやつ作りも利用者様を中心となり手作りのおやつを作ってみんなで食べる時間を設けている。 | 食事は全て手作りで、旬の食材を使った料理を提供している。利用者だけでなく、職員からの評判も良く、利用者は、ニコニコしながら、箸を止めることなく食べていた。季節に応じた食のイベントとして「そうめん流し」も行っている。今回は、地元の素麺と尾頭付きのししやもで、見事に完食。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | こまめに水分補給をして頂くよう声掛けをしている。食事もミキサー食や刻み食など一人ひとりに合った食事形態で提供している。また、毎食の食事量を記録し状態把握に努めている。        |  |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行っている。自立されている方が多いが、出来ない部分は職員が介助し、夜間は義歯を外して消毒している。                             |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄チェック表を活用し、利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた介助を行っている。介護度が高い方には定期的にパット交換を行い、清潔保持を心掛けている。               | 1名の方が、布パンツを使っている。排泄チェック表を用いて、利用者の状況把握を行い、個々の利用者に合わせて支援を行っている。また、常時車いすを使っている利用者を除いては、可能な限り、歩いてトイレに行って頂き、機能の維持に繋がっている。            |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 十分な水分補給や運動レクリエーションを取り入れ、便秘予防を行っている。便秘気味の利用者様には医師と相談し下剤を服用してもらい、状態に合わせて薬の調節を行っている。                 |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 利用者様の状態に合わせた入浴方法でゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう支援している。   | 入浴は週に2回行っている。入浴を苦手とする利用者もいるが、ほとんどの方が湯船に浸かっている。近日の予定を絡めた言葉かけや入浴剤を活用する等の工夫を行うことで、利用者の納得の下、入浴を行っている。                               |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中は出来るだけ離床し、リビングで活動的に過ごして頂いている。一人ひとりの体調に合わせて食後などはゆっくりと横になって頂いたり、その方のペースに合わせた支援を行っている。             |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 受診記録や服薬中の薬の内容は一人ひとりのファイルに保管し、職員が確認できるようにしている。症状の変化時は医師に報告、相談し変更がある時は職員全員が申し送りやファイルにて周知し、確認を行っている。 |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 電話連絡時やカンファレンス等でこれまでの自宅での生活の様子をお聞きし、一人ひとりに合った役割を持ち、家事などに参加して頂く事で張り合いのある生活を遅れる様、支援している。             |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近所を散歩したりドライブに出かけたり、年に一度は遠足を企画し外食を楽しむ等、楽しい外出ができる様支援しているが、コロナ禍で現在はほとんど外出が出来ていない。                    | 毎年花見に出かけていて、今年度も一大イベントとして実施し職員の気合いが高まっている。海の開けた岬にドライブにも出かけていて、コロナ禍であっても行える外出支援を考えて実施している。外出をすることで、ストレスやフラストレーションの解消となるように努めている。 |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 現在はコロナ禍で出来ていないが、ご自分でお金の管理が出来る方は少人数ですが買い物などの時に好きな物を買って頂けるよう支援している。                           |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | ご本人から希望があればご家族に電話したり、ご家族から電話があれば取り次ぐようにしている。手紙や持ち物が届いたら直接お渡しするようにしている。                      |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やリビングなどに季節に応じた模様替えをしたり居心地よく生活して頂けるよう毎日こまめに掃除を行い、清潔感のある空間にしている。                            | 共用空間の季節感を出すために、季節に合った大きな花のタペストリーを飾っている。また、腰掛けやすい高さの畳を敷いた空間を用意して、和を感じながら休め、安全面も考慮した場所も提供している。リビングからも海を眺めることができ、開放感を感じていた。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | リビングでは気の合う利用者様同士テーブルを囲みレクに参加したり話をしたり、思い思いに過ごせるよう工夫している。                                     |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入居時には出来るだけ自宅で使っていた馴染みのあるものを持ってきていただき、入居後の生活の状態で職員やご家族で相談し、現状に合った環境を整え、居心地よく過ごして頂けるよう支援している。 | 居室には、家族の写真の他、家族が手作りの「家族の写真付き日めくりカレンダー」が飾られ、家族を身近に感じられる空間となっていた。基本的には使い慣れた物を使って頂いているが、介護ベッドが必要な場合には、家族の了解を得て設置している。       |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | トイレや居室は大きく分かるように表示し、出来る限り自立して過ごせるよう環境を整え、リビングや居室には不要な物を置かない様危険防止に努めている。                     |  |                   |

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

|            |                     |
|------------|---------------------|
| 事業所番号      | 3771200304          |
| 法人名        | (有)お元気ですかショップ山下     |
| 事業所名       | グループホーム青空           |
| 所在地        | 香川県小豆郡小豆島町西村甲2121-1 |
| 自己評価作成日    | 令和 4 年 7 月 13 日     |
| 評価結果市町村受理日 |                     |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3771200304-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3771200304-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a> |
|----------|---|

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                  |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス |
| 所在地   | 岡山市北区岩井二丁目2-18   |
| 訪問調査日 | 令和 4 年 8 月 4 日   |

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が自分らしく、穏やかに生活できるように職員は常に利用者様の話に耳を傾け、笑顔で接する事を心掛けています。  
 ・家訓、理念のもと家庭的な雰囲気の中で職員は利用者様と共に生活し、ゆっくりと関わりを持つようにしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者交代から、代表と新管理者が前向きに第一歩を踏み出している。管理者に依存し過ぎていたため、管理者がいっぱいいっぱいの業務となり、思うことができていない状態が続いた事から、工夫に余念がないように何でも語れる代表と意思疎通を図っている。管理者も自分の思いを職員に本当に伝えられているのかと自問自答しながら、代表の描いている理念を家風として、より良い施設を目指している。やはり、なんと言っても、ベテランの職員で看護師、ケアマネを持った管理者経験がある方の力を頼れ、後押ししてくれることも魅力の一つで、外国人の元気さも加わって雰囲気を盛り上げているであろう。今後の真価が期待できる施設であった。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                              | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)   | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) |    |   |

有限会社アウルメディカルサービス

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |  |
|--------------------|-----|--|--|---|--|
|                    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容                              |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |  |   |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                             | ユニットのリビングには家訓と理念を掲示し、職員は家訓や理念に対して各自が目標を持ち、実践できるように取り組んでいる。   | 理念を家訓とし、事業所玄関・リビングに掲示している。職員は、家訓に沿い、利用者に思いやり、優しく、親切をモットーに明るく、楽しく。仲良く、温もりのある心の安らぎを得られるように支援を行っている。                               |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                             | 現在コロナ禍で中止しているが、年に一度の納涼祭ではご近所の方を招いて賑やかで楽しい一時を家族様と一緒に過ごされている。  | 家訓は地域に溶け込み貢献するとなっているので、近隣住民との挨拶をはじめ、付き合いを深め、ご縁が継続できている。近隣の方から野菜を頂き、おしゃべりすることもある。町内会に入っている他、経営者・管理者が消防団に所属している、地域に密着した関係性が築けている。 | 地域の関りとして、警察・消防・学校などを含めた、地域の交流をさらに広げてはいかがでしょうか。 |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 運営推進会議の際に、ホームでの様子や認知症についての話をし理解を深めてもらっている。現在はコロナ禍で書類開催になることが多く、返信用封筒を同封し相談を受けた場合は専門的な知識を活かし、認知症に関して分かりやすくアドバイスをしている。 |   |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている        | 運営推進会議では、地域や家族代表の方、町職員の方に参加して頂き、ホームの活動状況や取り組み状況の報告をして、参加者からの意見や助言をサービスの向上に活かしているが、現在はコロナ禍で開催が難しく書類開催にて意見を伺っている。      | 運営推進会議には、町の高齢者福祉課の他、民生委員・町内会長が参加している。水害への対応も議題に挙がり、避難方法や避難場所の検討も行った。  | 広い視野を求めるためにも、新しい委員会メンバーを募ってはいかがですか。            |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                  | 運営推進会議以外でも、困難事例や日常的な介護の実践において、分からない事があれば町役場の担当者の方に相談し、アドバイスを頂いたりしている。  | 町との連絡は密に取ることができており、新しい情報も、その都度受け取っている。不明瞭な点を確認すると、的確なアドバイスを受けることもできている。   |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的に玄関の施錠は夜間のみであるが、現在はコロナ禍で暫定的に日中も施錠している。毎月の職員会議では、身体拘束廃止委員会が拘束について話をし職員全体で話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。                   | 職員会議の中で、身体拘束を議題に挙げて話し合い「ちょっと待って」に変わる言い回しを考えていて、拘束防止委員会の会議の仕方もう工夫をしようとしている。センサーマットも、家族の了解を得た上で事故防止に役立っている。                       |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 職員会議等で虐待をしないケアの実践を確認する機会をもつようにしているが、コロナ禍が落ちれば外部での研修会等に参加し、学ぶ機会を持ちたいと思っている。   |   |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 権利擁護に関する制度については、話し合いや学ぶ機会は少ないので勉強会などで学ぶ機会を持つようにしていきたいと考えている。                        |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約時には十分な説明を行い、ご家族の不安な思いや不明な点が残らない様にホームでの生活について詳しくお話しし、理解、納得して頂けるよう努めている。            |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 利用者様の要望等は日々の生活の中での会話のやり取りで汲み取るようにしている。ご家族には電話連絡時等に意見や要望などをお聞きし、運営推進会議等で話し、意見を頂いている。 | 家族に電話連絡を行い、事業所の近況報告を行う中で、意見や要望を確認している。利用者からは、外出したいとの思いが見られたため、海が開けた岬へとドライブに出かけ、雄大な気持ちでストレス発散できる機会として、実施している。    |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月の職員会議や、毎朝の申し送り、連絡ノート等を通じて職員の意見や提案を把握し、管理者会等で検討し運営に反映させるようにしている。                   | 職員からの意見も多く挙がっている。その一つとして、リビングには、ひまわりやハイビスカス柄の大きなタペストリーを飾っていて、職員と利用者が一緒に折った「折り紙のバツタ」が跳んでいて、さりげなく鮮やかな花に一隅を照らしていた。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 職員の自己評価を実施したり面談の場を設け、日頃の実績を処遇に反映し、要望の把握に努めている。                                      |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | コロナ禍が落ち着けば事業所内外での研修の機会を確保したいと思っている。月一回の勉強会では担当職員がテーマを決め、それについての取り組みを行っている。          |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在はコロナ禍で出来ていないが、外部の研修に参加し、情報交換や交流を通じ事業所内での研修報告や勉強会などで全体の職員に伝え、サービスの質を向上させていく取り組みをした |   |                   |

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
|                              |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |   |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に施設見学(現在はコロナで施設内に入れないので写真を見て貰っている)や面接を行いご本人の状態や生活状況、ご本人やご家族の意見や希望を伺い、職員全体で情報を共有し、入居後安心して暮らせる関係づくりに努めています。                        |   |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入居前の面接等でご家族の不安や要望等を詳しく聞き、入居後もご家族とはなす機会を多くし、安心して生活できる様一緒に関われる関係づくりに努めています。   |   |                   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 入居前の見学や面接、契約時にご家族から話を聞き、状態を確認して必要な支援が行えるよう対応している。   |   |                   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 得意な事や役割としてできる事を見つけ、職員や他の利用者の方と一緒にやる事で生きがいを見つけ、生き生きと暮らして頂けるよう努めている。  |   |                   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 毎月の青空新聞発行や電話連絡等で日々の生活の様子を報告し、ご本人らしい生活ができる様家族と共に考え、相談できる関係を築いている。  |   |                   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | カラオケ交流会では地元の利用者の方もおられ、顔見知りの方が来て下さるのでとても楽しみにされている。家の近所をドライブしたり、以前よく買い物に行かれたスーパーに買い物に出かける機会を作っている。これらもコロナ禍で中止になっているので落ち着けば機会を見て再開したい。 | コロナ禍の中、なかなか馴染みの方に合う機会が少ないため、身近な人や場を提供してご縁を深めようとしている。事業所のリビングが馴染みの場所となっていて、利用者同士だけでなく、職員とも関わることが一つの楽しみになっていて、他所は、限られているが、地域の方ともご縁が深まるように散歩などもしている。 |                   |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 気の合う利用者様同士、近くの席に座って頂いて利用者さん同士が会話を楽しんだり、職員が常に利用者様とのコミュニケーションを心掛け、良好な関係を築けるよう支援している。  |   |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービス終了後も、そのご家族に会えば状況をお聞きしている。他の施設等に入居が決まった場合はご本人の情報を詳しく伝え、その後も必要に応じて連絡を取り合っている。           |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 利用者様との日常の会話やご家族との話し合いで利用者様の希望を出来るだけ聞くよう心掛けている。意思疎通が困難な利用者様に対しては顔色や表情を観察し、思いを理解する様努めている。   | 利用者の言葉だけでなく、表情や仕草からも意向を汲み取ろうと努めている。なかなか意向が分かりづらいときは、ゆっくりと腰を据えて、時間にゆとりを持って把握しようと試みている。  |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入居前にご家族から自宅での生活状況を詳しく伺い、これまでの環境と出来るだけ変わらないように使い慣れた馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂くなどし、配慮している。          |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 居室でテレビを観たい方や食後は居室で休みたい方など、個々に応じて生活が出来る様に配慮している。また、一人ひとりの状態に変化があれば細かく伝え、職員全体が把握出来るようにしている。 |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3ヶ月毎にカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意向を元に現状のニーズに合った介護計画を作成している。利用者様の状況に変化があった場合はその都度見直しを行い変更している。     | 入居前に、最初の計画作成を行っている。以降は3ヶ月ごとに実施し、利用者の状況に合わせて内容を変更している。ケアマネジャーは、以前の管理者で、看護師の立場からも、職員の気持ちも理解していて、モニタリングをよく聞き取り、医療面からもケアプランに反映させている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 利用者様の状態の変化や気づきには個別の介護記録に記入し、職員全体が共有している。毎日の申し送りや連絡ノートを活用し、情報の共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。       |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | ご本人やご家族の状況に応じて対応できるよう、カンファレンスや朝の申し送り時のミーティングなどの機会に支援方法について話し合っている。                        |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                     | コロナ禍で中止になっているが、音楽療法や子ども園の園児の慰問、二ヶ月に一度地元のボランティアの方とのカラオケ交流会など一緒に行っている。商工会のイベントやふるさと祭りなど、希望に応じて参加している。         |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 協力医療機関は近くにあり、緊急時にはすぐに受診できる体制である。希望があれば今まで受診していた医療機関を受診している。必要時には家族様と同行してもらい付き添いをしてもらっている(現在はコロナ禍の為、職員のみで対応) | 基本的に往診はしていないため、職員もしくは家族が、利用者と一緒に通院を行っている。看護師の協力で、入居者様の状態の定期的な連絡、定期的に更新したサマリーの配布及び職員会議資料の配布等々、出来るだけこまめに気配りし、医療機関とも連携し、緊急時も受診しやすい関係が築けている。 |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                         | 職場内の看護職員に毎朝バイタル状況や体調の変化を伝え、体調管理を行っている。体調の変化や状態が悪くなった時は看護師に相談し、指示を仰いでいる。                                     |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には利用者様についての情報やサマリーを作成し、ご家族や病院関係者と退院に向けての計画を相談しながら退院への支援を行っている。   |  |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 緊急時の対応や延命に関しての意思確認書を入居時に提出して頂いている。終末期には出来る限りのケアを続けられるよう、ご家族や医療関係者に協力を得ながら対応している。                            | 今年も1件の看取りを行っている。家族とのすり合わせを行った上で、医療機関と協力し、できる限りのケアを行っている。デスカンファレンスも職員間で行い、今後はこうしていきたいなど、利用者の家族の気持ちに添えるように支援している。                          |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 緊急時のマニュアルを作成し、常時確認できる場所に掲示したり、介護記録にも綴じて的確に対応できるようにしている。コロナ禍が落ち着けば救急救命の講習会にも参加をしたい。                          |  |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 定期的に避難訓練を実施しており、年に1回は消防立ち合いにて訓練を行っている。訓練後は反省会にて話し合い、職員間に周知徹底するようにしている。                                      | 火災想定避難訓練は、消防署の立ち合いの下、実施している。災害時の対応を詳細に書いたマニュアルを作成している、共有場所に連絡体制表をいつでも確認できる体制が整っていた。  |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 一人ひとりの人権やプライバシーを尊重し、言葉遣いも丁寧に対応できるよう心掛け努力している。   | 基本的には苗字に「さん」を付けて呼んでいる。ただし、苗字の読みが同じ場合には、名前に「さん」を付けて呼んでいる。先生の方で、以前呼ばれていたからと「先生」と呼ばれるよりも、氏名で言葉をかけてほしいとの要望があり、職員も言葉掛けに配慮している。              |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 職員は毎朝一人ひとりに挨拶と声掛けをし、積極的にコミュニケーションを図ることで利用者様の思いや希望を把握し、ご本人の希望や思いに沿ったケアが出来るよう努めている。         |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの性格や生活のリズムを大切にし、個々に合った生活が出来るよう支援している。  |  |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 一部の方はご自分の好きな服装選びをされるので、そのお手伝いをしてい。ご自分でできない方は職員が季節に合った服装を選んでいる。                            |  |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 野菜の下ごしらえや机拭き、食器拭きなど自分の役割としてできる事はお手伝いして頂いている。毎月のおやつ作りも利用者様を中心となり手作りのおやつを作ってみなで食べる時間を設けている。 | 食事は全て手作りで、旬の食材を使った料理を提供している。利用者だけでなく、職員からの評判も良く、利用者は、ニコニコしながら、箸を止めることなく食べていた。季節に応じた食のイベントとして「そうめん流し」も行っている。今回は、地元の素麺と尾頭付きのししやもで、見事に完食。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | こまめに水分補給をして頂くよう声掛けをしている。食事もミキサー食や刻み食など一人ひとりに合った食事形態で提供している。また、毎食の食事量を記録し状態把握に努めている。       |  |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行っている。自立されている方が多いが、出来ない部分は職員が介助し、夜間は義歯を外して消毒している。                            |  |                   |



| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄チェック表を活用し、利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた介助を行っている。介護度が高い方には定期的にパット交換を行い、清潔保持を心掛けている。               | 1名の方が、布パンツを使っている。排泄チェック表を用いて、利用者の状況把握を行い、個々の利用者に合わせて支援を行っている。また、常時車いすを使っている利用者を除いては、可能な限り、歩いてトイレに行って頂き、機能の維持に繋がっている。            |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 十分な水分補給や運動レクリエーションを取り入れ、便秘予防を行っている。便秘気味の利用者様には医師と相談し下剤を服用してもらい、状態に合わせて薬の調節を行っている。                 |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 利用者様の状態に合わせた入浴方法でゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう支援している。   | 入浴は週に2回行っている。入浴を苦手とする利用者もいるが、ほとんどの方が湯船に浸かっている。近日の予定を絡めた言葉かけや入浴剤を活用する等の工夫を行うことで、利用者の納得の下、入浴を行っている。                               |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中は出来るだけ離床し、リビングで活動的に過ごして頂いている。一人ひとりの体調に合わせて食後などはゆっくりと横になって頂いたり、その方のペースに合わせた支援を行っている。             |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 受診記録や服薬中の薬の内容は一人ひとりのファイルに保管し、職員が確認できるようにしている。症状の変化時は医師に報告、相談し変更がある時は職員全員が申し送りやファイルにて周知し、確認を行っている。 |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 電話連絡時やカンファレンス等でこれまでの自宅での生活の様子をお聞きし、一人ひとりに合った役割を持ち、家事などに参加して頂く事で張り合いのある生活を遅れる様、支援している。             |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近所を散歩したりドライブに出かけたり、年に一度は遠足を企画し外食を楽しむ等、楽しい外出ができる様支援しているが、コロナ禍で現在はほとんど外出が出来ていない。                    | 毎年花見に出かけていて、今年度も一大イベントとして実施し職員の気合いが高まっている。海の開けた岬にドライブにも出かけていて、コロナ禍であっても行える外出支援を考えて実施している。外出をすることで、ストレスやフラストレーションの解消となるように努めている。 |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 現在はコロナ禍で出来ていないが、ご自分でお金の管理が出来る方は少人数ですが買い物などの時に好きな物を買って頂けるよう支援している。                           |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | ご本人から希望があればご家族に電話したり、ご家族から電話があれば取り次ぐようにしている。手紙や持ち物が届いたら直接お渡しするようにしている。                      |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やリビングなどに季節に応じた模様替えをしたり居心地よく生活して頂けるよう毎日こまめに掃除を行い、清潔感のある空間にしている。                            | 共用空間の季節感を出すために、季節に合った大きな花のタペストリーを飾っている。また、腰掛けやすい高さの畳を敷いた空間を用意して、和を感じながら休め、安全面も考慮した場所も提供している。リビングからも海を眺めることができ、開放感を感じていた。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | リビングでは気の合う利用者様同士テーブルを囲みレクに参加したり話をしたり、思い思いに過ごせるよう工夫している。                                     |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入居時には出来るだけ自宅で使っていた馴染みのあるものを持ってきていただき、入居後の生活の状態で職員やご家族で相談し、現状に合った環境を整え、居心地よく過ごして頂けるよう支援している。 | 居室には、家族の写真の他、家族が手作りの「家族の写真付き日めくりカレンダー」が飾られ、家族を身近に感じられる空間となっていた。基本的には使い慣れた物を使って頂いているが、介護ベッドが必要な場合には、家族の了解を得て設置している。       |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | トイレや居室は大きく分かるように表示し、出来る限り自立して過ごせるよう環境を整え、リビングや居室には不要な物を置かない様危険防止に努めている。                     |  |                   |